

一般社団法人 キャリアブリッジ 社内研修会

発達障がいと生活・就労支援

田中精神科医オフィス

田中 千足

2020年11月4日

診断ガイドラインの更新

- ICD-10からICD-11へ(WHO)
- DSM-IV-TRからDSM-5へ(アメリカ精神医学会)
- 精神障がいの一部再分類
- カテゴリー分類からスペクトラム(連続体)概念に
- 訳語ではdisorderを「障害」または「症」とする
- 全般不安症/全般性不安障害

精神障害の国際分類(ICD-10)

その2

- 摂食障害、睡眠障害、産褥精神障害
- 人格障害、衝動性の障害、性同一性障害
- F7.知的障害
- F8.広汎性発達障害
 - 自閉症, アスペルガー症候群
- F9.多動性障害

ICD-11

06 精神的、行動的、神経発達的障害群

■ 1 神経発達症群

- 知的発達症
- 自閉スペクトラム症(ASD)
- 注意欠如多動症(AD/HD)
- チック症群

■ 2 統合失調症または他の一次性精神症群

- 統合失調症
- 統合失調感情症
- 統合失調型症

自閉スペクトラム症

- DSM-IV、ICD-10で自閉性障害、アスペルガー障害を含む広汎性発達障がいとされていたものが、DSM-5,ICD-11では、自閉スペクトラム症という**連続体モデル**でまとめられた。
- A.社会的コミュニケーション及び対人的相互反応における持続的欠陥
- B.行動、興味、または活動の限定された反復的様式

A. 社会的コミュニケーション及び対人的相互反応における持続的欠陥

■ 相互の対人的—情緒関係の欠落

- 異常に近づく、通常の会話のやり取りができない
- 興味、情動、感情を共有できない

■ 非言語的コミュニケーション行動の欠如や まとまりの悪い言語的コミュニケーション

- 視線が合わない、身振りの理解ができない

■ 人間関係を発展させそれを維持し理解することの欠陥

- 様々な社会状況に合った行動ができない

B.行動、興味、または活動 の限定された反復的様式

- 常同的、反復的な身体運動、物の使用、会話。
 - 体を奇妙に動かし続ける、
 - おもちゃの車を一列に並べる
 - オーム返し、場にそぐわない独語の繰り返し
- 同一性への固執、習慣への頑なこだわり、言語的、非言語的な儀式的行動様式
- 強度で異常なほど限定され執着する興味
- 感覚刺激に対する過敏さと鈍感さ、ある感覚的側面への並外れた興味

自閉性障害の基本症状1

相互的社会的交流の質的障害

- 目が合わない
- 話しかけているのに知らんぷり
- 人との関わりを求めない
- 人とのよろこびの共有を求めない
- 友達にルール違反を指摘する
- うまく友達の輪に入れず、孤立したり、からかわれたりする

自閉性障害の基本症状2

コミュニケーションの質的障害

- 言葉の発達の著しい遅れ
- おうむがえし
- 人称や立場の逆転した表現
- 場にそぐわないTVコマーシャルなどの常同言語
- 身振りによるコミュニケーションのなさ
- 喋り方が独特、いつも標準語や丁寧語
- 言われたままに受け止める
- 冗談が通じない

自閉性障害の基本症状3

活動や興味の著しい狭さ

- 自己刺激行動
- パターン化した行動
- 特定のもの(キャラクターや虫、自動車の標識など)や記号への固執
- ごっこ遊びをしない
- 手順へのこだわり
- 初めての場面で大混乱
- 予定が急に変更になるとパニックになる

アスペルガー症候群

- 相互的社会的交流の質的障害
- 活動や興味の著しい狭さ
- 思春期までは少し風変わりな子という印象
- 思春期以降に適応障害を起こしやすい
- 議論がかみ合いにくい
- 相手の心を読むのが苦手
- 高機能(知的障害のない)自閉症との異同
- 小児期はADHDのような多動を示すこともある

アスペルガー症候群の 臨床的経過 1

- 幼児期の行動は自閉症と大きな変わりはない
- 集団教育と同時に集団行動が著しく不得手なことが目立つ
- カタログ的のもの（数字、文字、標識、自動車の種類、電車の種類、時刻表、世界地図、国旗など）への興味

アスペルガー症候群の 臨床的経過 2

- 学童期、学校生活で集団行動がとれないことが大きな問題になる
- 言葉は達者で難しい語彙を用いるが表面的使用が多く、比喩や冗談の理解が著しく困難である
- ファンタジーへの没頭(たとえばアニメのキャラクター)
- 過度に周囲に過敏になり時に被害妄想を持つ
- 些細なことでパニックになる

アスペルガー症候群の 臨床的経過 3

- 青年期・成人期、対人関係の問題、執着的・強迫的傾向が持続する
- 就職の際の面接をクリアするのは容易でない
- 就職しても対人技能・社会性の乏しさが困難を招く
- 配慮された環境では就労は可能で、知的作業につく者もある
- 被害妄想などの精神障害を示すこともある

自閉スペクトラム症の認知機能

■ 強み

- 機械的記憶：正確なカタログ的知識
- 視覚表現：一度見ただけのもので正確に描ける

■ 弱み

- 社会相互関係ができない
- 自分流の解釈・理解
- 変化に適応できない

■ 感覚（聴覚、触覚、視覚）の過敏さと鈍感さの混在。

自閉スペクトラム症の就労支援

- 同時に複数の作業を行うのが苦手（ワーキングメモリーの容量不足）
- 口頭での指示を理解することが苦手（視覚処理は得意で、聴覚処理は苦手）
- 臨機応変の判断が難しい
- 仕事のやり方が自己流になりやすい

自閉スペクトラム症の就労支援 2

- 失敗に対処する際のコミュニケーション・社会性の不足
 - 失敗の報告と謝罪ができない
 - 自分の立場ばかり主張する
 - 言い訳が饒舌すぎる
 - 表情や態度が適切でない
 - 身体不調を訴えて逃避してしまう
- 本人の能力と職場の要求水準のミスマッチ

症例 1

数社の一般就労の後、
各種の就労支援事業になじめず、
引きこもり孤立する男性

症例2 音への敏感さが高じて 居場所がなくなる女性

症例3 対人関係の下手さを自覚しながらも改善できず苦しむ青年

症例4. 別の就労移行支援事業所の紹介の職場に適応した男性

注意欠如・多動症 (AD/HD)

■ 不注意

- 不注意な過ちを犯す
- 注意の持続が困難
- 直接話しかけられても聞いていないよう
- 指示に従ってやり遂げられない
- 課題や活動を整理することが困難
- 精神的努力を継続する課題を避ける、嫌う
- 課題に必要なものを無くす
- 外からの刺激によって注意をそらされる
- 日課を忘れる

注意欠如・多動症 (AD/HD)

■ 多動性/衝動性

- 手足をソワソワ動かし、椅子の上でもじもじする
- 座っていることを要求される状況でじっとできない
- 走り回り、高いところに上ったり、過度に動き回る
- 過度に大声で騒々しい
- じっとしておれず、他人からも落ち着きないと見える
- しゃべりすぎる
- 質問が終わる前にだしぬけに答えてしまう
- 順番を待つことが困難
- 他人の邪魔をしたり干渉する

AD/HD 2

- 子供では6項目以上6か月以上持続すること
- 17歳以上では5項目以上で診断される
- かつては自閉スペクトラム症と併存しないと
いわれたが、現在は併存を認め、しかも多い
とされる。
- 学校、職場、家庭など2つ以上の状況で起る
- 社会的、学業的・職業的機能を損なうか低下
させている

AD/HD 3

- 薬物療法が著効する場合もある
- 反省を求める長い説教は無効
- 褒めることを強化因子として不注意、衝動的行動を減らす。
- 危険を伴う不適切行動は手短な指示で断固制止
- ワーキングメモリーが少ないことへの支援
- 片づけることが苦手なことへの支援

症例5 中学2年から抗ADHD剤
服用継続してIT企業の
マネージャーをしている男

症例6 会社でミスを繰り返す男性

ええ加減主義のススメ

- 不十分という意味の「ええ加減」で、物事を投げ出してしまっていていいという意味ではない
- こうありたいという目標に向かって我々は生活している。すごくいいことだ。
- その目標が仕事であればきちんと成果を上げねばと思う。その目標が生き方であれば、それは人間としてのモラルだ考える。
- 目標通りにいけばそれに越したことはないが、そううまくいかないのがこの世の常だ。

ええ加減主義のススメ 2

- ところが人間は**完ぺき主義の罠**にはまる。
- **こうせねば、こうあらねば**に支配されるのは、きっちりこの罠にはまっている
- この罠にはまると、人間は**どんどん自分を責める**。
- **不安**は高まり、**抑うつ**的になり、**他者にも腹が立つ**。
- もうこれはいくつもの**精神症状**を抱えた状態である。
- **すでに精神障がい**にある人はさらに病状は悪化する。

ええ加減主義のススメ 3

- 我々の住む世界、社会も自然界も、きわめて複雑で入り組んだ相互作用のなせる業だ
- 現象を理詰めに説明できたりしない、ただただ経験則から類推するより仕方ない
- 試行錯誤で行くしかない
- 料理人がある味を加えたり、いや減じたり、そうしてより良き結果を見つけたのが「ええ加減」である。
- 目標通りにいっていない今を、今のところはこれでいいと「ええ加減」を受け入れることが、目標へのスタートである。

精神的に健康であるには

■ ええ加減主義を実践するにはどうするか

■ 自己肯定感を持つ

- いい意味での自己中になれ
- そうすれば周りにも寛容になれる
- Me Yes and You Yes

■ 楽観的になれ

- 先のこと、まあ何とかかなるだろう(心配が出そうになると振り払う)
- 自己分析、反省のつもりが気分を下げる役割しか果たさないことがほとんど

パーソナリティ機能

- パーソナリティ障がい群の代替DSM-5モデル
- 病的パーソナリティ特性とともに基本次元(ディメンション)をなす
- 自己
 - 同一性
 - 自己志向性(自律性)
- 対人関係
 - 共感性
 - 親密さ

パーソナリティ機能：自己 Personality Functioning :Self

■ 自己同一性 (Identity: アイデンティティ)

- 役割に適した境界を保つ自分という意識
- 自己制御された肯定的自尊心
- すべての情動を体験し、許容し、制御できる

■ 自己志向性 (Self-direction: 自律性)

- 自己の能力の評価に基づく合理的目標を設定
- 適切な行動規範を利用し、多くの領域で達成感を持つ
- 内的体験を省察し意味づけることができる

パーソナリティ機能：対人関係

P F : Interpersonal

■ 共感性(Empathy)

- 他者の体験及び動機を正確に理解できる
- 異なる意見でも、他者の見方を理解し尊重する
- 自己の行動が他者に及ぼす影響を理解する

■ 親密さ(Intimacy)

- 個人及び地域の生活で、充実し持続的な多くの関係を持つ
- 思いやりがあり親密な互恵的關係を持てる
- さまざまな他者の思考、情動、行動に柔軟に対応できる

より良い支援をするために

- 支援目標・プログラムを作るとき、利用者のパーソナリティ機能を評価し、念頭に置く
- 目標設定を行う時、利用者の自尊心を損なっていないかを考える
- 利用者が不合理に高い目標設定をするとき、その背景を考えつつ合理的目標に再設定する
- 利用者との間の心理的葛藤が高まったとき、支援者自身のパーソナリティー機能の低下の危険があると知っておく